

ポートアイランド リボーン シンポジウム 2026

2026.5.13

ポートアイランド リボーン シンポジウム 2026

2026年5月13日[水]
13:30-15:30
[13:00 開場]

神戸ポートピアホテル
本館B1F 偕楽
神戸市中央区港島中町6丁目10-1

主催 神戸市都市局未来都市推進課
問い合わせ先 神戸市お問い合わせセンター
0570-083-330 または 078-333-3330
年中無休 8:00-21:00

メールフォーム




申し込みはこちらから
<https://forms.gle/ahRgahGaeBsuE8gg>

参加無料

会場200名^{程度}
オンライン100名^{程度}

定員に達し次第
受付終了

PORT ISLAND REBORN SYMPOSIUM 2026

今改めて
ポートアイランドの
魅力とは

第1部 市民提案レビュー

第2部 パネルディスカッション

- 1 「緑豊かな未来都市の実現に向けて」
- 2 「ポートアイランドで起こりつつある新しい動き」

5.13|13:30-15:30

本市では、ポートアイランドの活性化に向け、2022年度より「ポートアイランドリボーンプロジェクト」を始動し、島内の関係者の方々と意見交換やワークショップを行いながらまちの将来ビジョンの検討を進めています。このたびは2025年度に取り組んだ「市民提案」の共有と2026年度以降の取り組みや目指すべきまちづくりの方向性について意見交換を行うことを目的に「ポートアイランドリボーンシンポジウム2026」を開催します。ポートアイランドのまちづくりにご興味をお持ちの方はぜひご参加ください。



あてかけ KOBÉ



ポートアイランド・リボーンシンポジウム2026

第1章

市民提案レビュー

登壇者(エリア順・敬称略)

住民エリア

橋田之宏 | 港島自治連合協議会 副会長

大学エリア

江田英里香 | 神戸学院大学 現代社会学部 社会防災学科 教授

ファッションタウンエリア

山田健一 | ユーハイム THEO事業部 部長
兼 フードテックマイスター 常務取締役

コンベンションエリア

中内 仁 | 神戸ポートピアホテル 代表取締役

医療産業都市エリア

菊地耕三 | エア・ウォーター・アエラスバイオ 代表取締役

2期企業エリア

永田雅寛 | 神戸どうぶつ王国 代表取締役

市民提案 について

神戸市が2022年から進めている「ポートアイランド・リボーンプロジェクト」の一環として、市が「将来ビジョン」を策定するに先立ち、将来ポートアイランドに関わる住民や企業、大学等の関係者が実現したいことを神戸市と連携(公民連携)して取り組む上での課題共有と実施体制構築を主な目的としてとりまとめられた。

第1章「経緯と課題」

・2023年度港島内の**13団体160名以上**への事前ヒアリング、一般公募「まちあるきスタディ」、シンポジウムなど意見交換およびそれらでの議論をもとに共有された**深度化の方針**に基づき、2024-2025年度に実施された一連の社会実験の経緯をまとめ、**市民提案の方向性を定める**ものである。

第2章「市民提案」 は、事前ヒアリングや意見交換などの結果を踏まえ、ポートアイランドでの意見聴取の対象を住民、大学、企業など属性の異なる**6つのクラスタ(集団)**に概ね対応する「6つのエリア(区域)」として定義し、それぞれのエリアに対し**アンケート調査、素案の作成、および素案に関する意見交換を実施し、まちづくりの方向性をまとめたものである。**

第3章「専門家意見」 は、事前ヒアリングやアンケート作成を担当し、全国各地のまちづくりに関わる専門家の立場から、今後の神戸市の**まちづくり推進に繋げるポイントやあり得べき提案などについて整理**したものである。市民提案の内容を今後の神戸市の施策へ反映させる際に、**橋渡しとして機能**させることを意図している。

1章 経緯と課題

1.1 プロジェクトの背景と方向性



2022年度に描かれたコンセプトイメージ

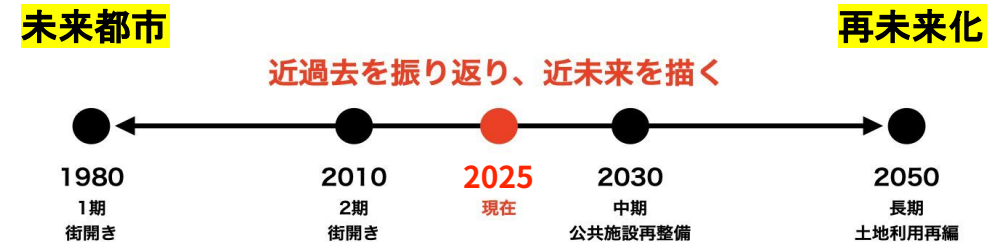
1. 「ポートアイランド・リボーンプロジェクト」の背景

1981年の「ポートピア'81」開催と共に幕を開けたポートアイランドは、海上文化都市としての輝かしい歴史を持つ一方で、まちびらきから40年以上が経過し、都市インフラの老朽化と人口動態の変化という複合的な課題に直面している。神戸市が推進する「ポートアイランド・リボーンプロジェクト(PIR)」は、単なる物理的な修繕や再開発にとどまらず、**成熟したニュータウンが次世代の都市モデルへと脱皮するための構造改革を目指す取組み**として進められている。

現状のポートアイランドは、自然豊かな住環境、多数の大学、国際的なコンベンション機能、高度な医療産業を含む企業の集積などを擁しながらも、**それぞれの機能が「島」のように孤立し、都市全体としてのシナジーを十分に発揮できず、まちとしての「魅力」として発信できていない**状況にある。これまでの調査において、居住者、就業者、学生といった多様なステークホルダーが、物理的には近接していながら心理的・機能的に分断されているということが明らかとなった。

1章 経緯と課題【1.1 プロジェクトの背景と「再未来化」の方向性】

2. 「再未来化」という方向性



PIRの中核をなすコンセプトは「再未来化」という概念を設定する。「再未来化」とは「**近未来を描くために、近過去を検証する**」という歴史的連続性を重視し、過去を否定して全く新しい未来を描くスクラップ・アンド・ビルド型の開発手法とは一線を画すアプローチである。

ポートアイランドにおいて「**近過去**」とは、機能別にゾーニングされ、歩車分離が徹底された1980年代の都市デザイン手法を指す。当時は最先端(=未来都市)であったこの都市デザインが、現代においてはコミュニティの分断やにぎわいの喪失を生んでいる。しかし、「再未来化」のアプローチでは、これらを「負の遺産」として撤去するのではなく、**現代的な視点で「再編集」し、新たな価値を付与する**ことを目指す。

例えば、かつて自動車交通のために過剰に確保された広大な道路空間(ポートピア大通りなど)は、現代においては「**ウォーカブルな広場**」や「**グリーンインフラ**」として転用可能な貴重な**空間資産**となる。このように、**既存のストックを読み替え、新たな意味を与えるプロセス**こそが、ポートアイランドにおける「リボーン」の本質と捉える。

1章 経緯と課題【1.2 調査の概要】

2023年からのヒアリングやまちあるきスタディ、3度のシンポジウムなど取組みを重ね、現状におけるポートアイランドの課題を明らかにした。

1. ヒアリング（2023年～2025年）

はじめに島内関係者・各団体について整理し、顔合わせをしたうえでヒアリングを実施した。関係企業等はアンケートを作成し、各社配布のうえ聞き取りし、延べ300人以上との意見交換を行った。ヒアリングからは主に下記の4点が共通した課題として挙げられた。

1)生活利便性の不足

- ・コンビニやファストフード、うどんくらいの軽さのものが欲しい
- ・キッチンカーはもう少し種類が欲しいが市場の原理、既存の環境との調整が難しい
- ・自転車での移動が便利になって欲しい

2)交流空間の不足

- ・島内のイベントがある時は懇親会もそのままできたらいいな、と感じる
- ・国際展示場で開催される学会は集合時間が朝早いので島内にもっと選択肢があれば宿泊したい
- ・隣に座った人が医療産業の人で交流できる、みたいな空間があれば

3)エリア価値の発信

- ・学生時代は最先端のイメージ。遊びに行くところでは住むところではない
(震災で液状化し、孤立したことを知っているため)
- ・4月まで医療産業都市があることを知らなかった
- ・来てみると自然が多くて面白いところ

4)高齢化対応

- ・まちなかの段差等の解消

1章 経緯と課題【1.2 調査の概要】

2. まちあるきスタディ

有識者とともに島内のまちを歩き体験を共有したあとで、まちの課題や将来像の方向性を意見交換する**体験型ワークショップ**を実施した。有識者や他の参加者と視点や問題意識を共有したうえでの意見交換は従来型WSにない充実したものであった。参加者は約50名(公募)であった。



2024年2月10日(日) まちあるきスタディ

1章 経緯と課題【1.2 調査の概要】

3. ポートアイランド・リボーンシンポジウム

これまで2023年から2025まで計3回、取組や課題、新たな動きや将来像について共有する場として実施され、ポートアイランド各エリアの課題と取組の方向性が語られ、**ポートアイランドの魅力や将来像**についてディスカッションが行われた。

また、当日に実施したアンケートによると、多くの回答者がポートアイランドにポテンシャルを感じている一方で、**取り組みをつなぐ場や新たなプレイヤーの参加の仕組み**が不足していることが共通認識とされていることがわかった。



登壇者：藤村龍至氏/小
浦久子氏/小林郁雄氏/津
川恵理氏/山下裕子氏

- (1)日時：2023年3月13日(月)
- (2)場所：神戸国際会議場国際会議室
- (3)参加：会場参加78名・
オンライン参加130名
計208名参加



登壇者：港島自治連合協
議会/神戸学院大学/神戸
ポートピアホテル/八十島
プロシード神戸支店/交友
印刷

- (1)日時：2024年3月4日(月)
- (2)場所：神戸国際会議場国際会議室
- (3)参加：会場参加90名・
オンライン参加61名
計151名参加



登壇者：港島自治連合協
議会/神戸商工会議所/中
央市民病院/神戸学院大学
/シャルレ/日立製作所/お
まどデザインスタジオ

- (1)日時：2025年5月19日(月)
- (2)場所：神戸ポートピアホテル
- (3)参加：会場参加122名・
オンライン参加81名
計203名参加

1章 経緯と課題【1.2 調査の概要】

4. 久元市長・藤村准教授対談（2025年1月）

2025年1月に行われた久元神戸市長と藤村准教授の対談において共有されたまちの課題と方向性は、以下の3点に集約される



かつての未来都市は、生まれ変わって、新たな未来へ歩み出す。

(1) 港島の**魅力**をどのように引き出すか

久元：機能としては非常に高度化してきた一方で、もっと多くのひとにとっての**まちの魅力**を高めたいと考えている

藤村：**エリアマネジメント**の手法を通じて、まち全体での人材や公共空間のポテンシャルを発掘し、うまく活用して魅力を引き出したい

(2) 未来都市の「**再未来化**」と「**緑**」が果たす役割

藤村：まちの近未来を描くには**近過去の検証**が必要。ポートピア大通りの緑道やまちの骨格を社会実験で活用したように、現代に合わせて**再未来化**する視点が求められる

久元：**緑**は大きなテーマになり得る。企業や市民・来街者の皆さんに取り組みへ参画していただくことができれば、リボーンプロジェクトの切り口になると感じる

(3) **公と民**の新しいパートナーシップ

藤村：これからのまちづくりにおいては、**行政と民間との関係性を**時代に合わせて**再デザイン**していかなければならない

久元：**プラットフォームを提供**する役割を市が果たしていく方向に転換していくための大きなアプローチが、このポートアイランド・リボーンプロジェクトではないかと再認識した

1章 経緯と課題【1.3 深度化の方向性「3つの柱」】

ポートアイランド・リボーンプロジェクトを深度化するための3つの方向性が示されている

1. ストリートマネジメント

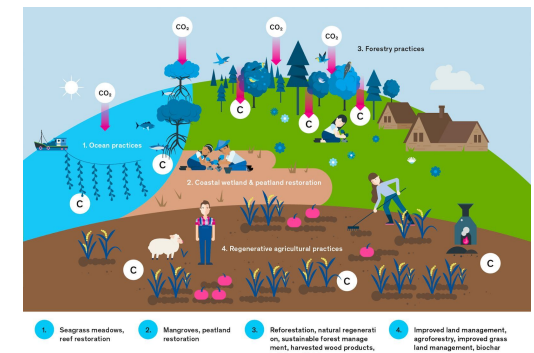
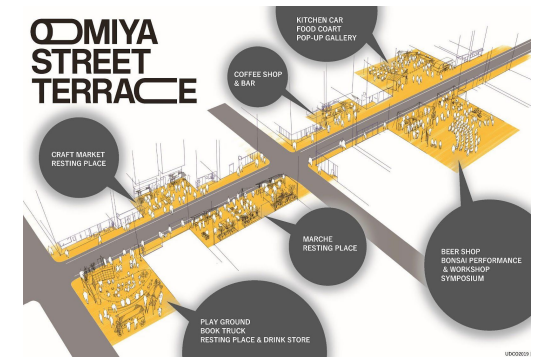
- ・公共空間のコーディネート組織、交流、植栽
- ・都市利便増進協定に基づく街路・沿道の一体利活用を目指す

2. アクティブデザイン

- ・公共空間のアクティブ化（健康/運動）
- ・整備と活用に加えて経営を考える
- ・高齢化・生産性の向上などの課題を公共空間の「アクティブ化」によって解決する

3. 自然を基盤とした解決策 (Nature-based Solutions : NbS)

- ・自然を用いた課題解決
- ・課題を施設やインフラの整備だけに頼るよりも、自然に根ざした考え方で解いていく
- ・ポートアイランドの高齢化・防災・エネルギーなどの課題をグリーンを用いて解決する



1章 経緯と課題【1.4 社会実験による検証】

1. 実施概要と目的

深度化の方向性を実験するため公共空間を活用した**社会実験**を2024年度と2025年度に実施した。

2024年度実験「PORTOPIA DESIGN WALK 2024」概要

ポートアイランド(以下、PI)の南北を貫くポートピア大通りとファッションタウンの入口にある市民広場をつなぎ、住民や企業の皆様と一緒に緑溢れるウォーカブルな公共空間を創り、地域の課題解決を図る試みを行った

日時:2024年11月3日(日)11:00-16:00(交通規制は10:00-18:00)

「ポートピア大通りヒロバ化実験」

ポートピア大通りと緑道を一体化し、活性化を試みる実験

場所:ポートピア大通り みなとじま駅周辺(南行き2車線)+緑道エリア

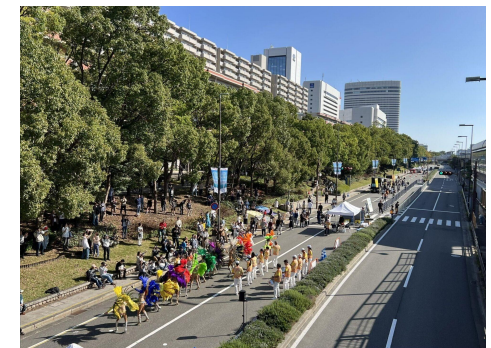
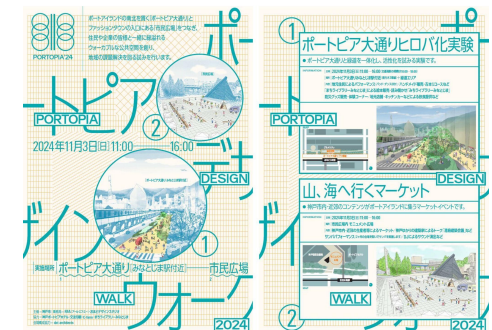
内容:地元住民によるパフォーマンス(バンド・ダンス他)/ハンドメイド販売・古本リユースなど/まちライブラリーみなとじまによる絵本販売・読み聞かせ「みちライブラリーみなとじま」/防災グッズ販売・体験コーナー/地元店舗・キッチンカーなどによる飲食提供など

「山、海へ行くマーケット」

神戸市内・近郊のコンテンツがポートアイランドに集うマーケットイベント

場所:市民広場 モニュメント広場

内容:神戸市内・近郊の生産者等によるマーケット/神戸ゆかりの建築家によるトーク「港島建築会議」など/サンバパフォーマンス(2箇所の会場を繋いで実施)/DJによるサウンド演出など



1章 経緯と課題【1.4 社会実験による検証】

1. 実施概要と目的

2025年度実験「ポートピア・ストリートフェス 2025」概要

ポートアイランドの6つのエリアを繋ぐ3箇所を連携させ、港島内で開催されるイベントを一体的に発信しエリア全体をプロモーションすることでエリアマネジメント体制構築の機運醸成を図る試みを行った。

日時: 2025年10月4日(土)11:00-16:00(市民広場は15:30-20:00)

会場A: ポートピア大通り緑道

地元住民・港島内の店舗中心に出店・出演

会場B: 市民広場

港島内の企業・市内店舗やミュージシャンの出店・出演

会場C: 医療センター駅前

キッチンカーによるランチ提供・交流コンテンツPR

同日に神戸医療産業都市一般公開、ポーアイマルシェが開催され、広報等で相互に発信するなど連携を行った



1章 経緯と課題【1.4 社会実験による検証】

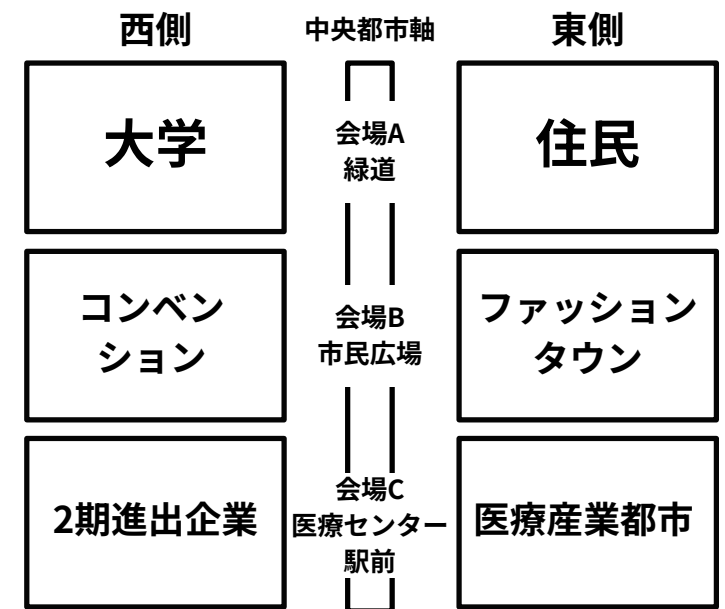
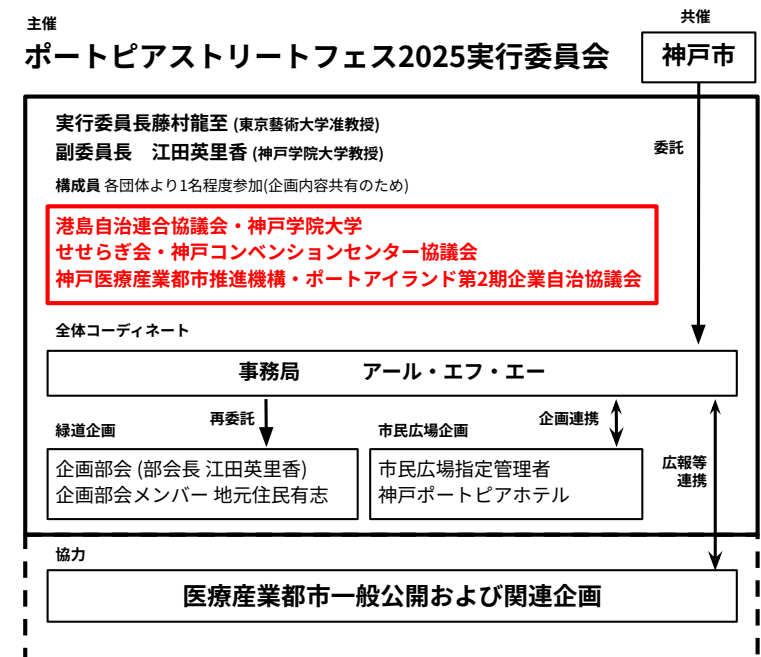
1. 実施概要と目的

定量的評価

来場者数は2024年が合計1500名、2025年は合計1700名(緑道800名 市民広場600名 医療センター300名)であった。出店した飲食事業者によっては10万円を超える売上があった。また、2024年はポートピア大通りと市民広場の連携にとどまったが、2025年には医療センター駅でも実施し一般公開などと連携することで、**島内全体の連携**へつながる一歩となった。

定性的評価

2024年は積極的に活動する島内プレイヤーの発掘を行った結果、2025年は実行委員会を組織し、緑道エリアの企画・運営を主体的に実行する体制を構築することができた。また、実行委員会の構成員として6つのエリアそれぞれから代表する企業1-2名が出席し、情報を共有する場を設けた。これらは**将来的にエリアマネジメント団体や島内エリアプラットフォームの足がかり**となることが期待される。



2章 市民提案

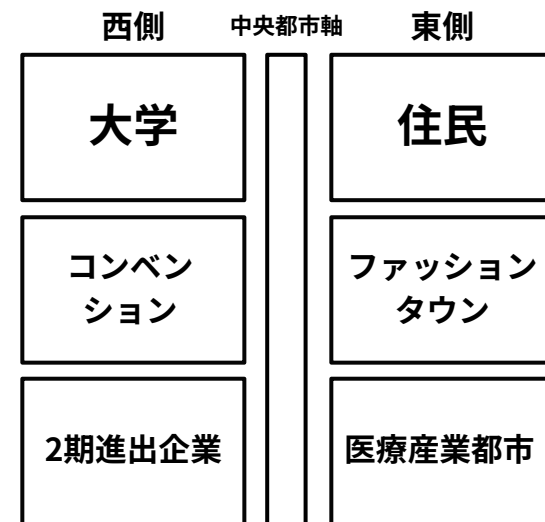
本日ご登壇の皆様

	西側	中央都市軸	東側	
神戸学院大学 現代社会学部社会防災学科教授 江田 英里香 様	大学		住民	港島自治連合協議会 副会長 橋田 之宏 様
神戸ポートピアホテル 代表取締役 中内 仁 様	コンベン ション		ファッション タウン	ユーハイムTHEO事業部部長 兼 フードテックマイスター 常務取締役 山田 健一 様
神戸どうぶつ王国 代表取締役 永田雅寛 様	2期進出企業		医療産業都市	エア・ウォーター・ アエラスバイオ 代表取締役 菊地 耕三 様

2章 市民提案

2.1 概要

事前ヒアリングや意見交換などの結果を踏まえ、ポートアイランドでの意見聴取の対象を住民、大学、企業など属性の異なる6つのクラスター(集団)に概ね対応する「6つのエリア」として定義し、それぞれのエリアに対しアンケート調査、素案の作成、および素案に関する意見交換を実施し、将来のまちづくりの方向性をまとめたものである。



2.2 意見聴取の方法

意見聴取の方法は6つのエリアごとに「アンケート作成→アンケートを下に素案を作成→素案をもとに意見交換」の手順をベースに実施された

ポートアイランドリノベーションプロジェクト
市民提案作成のための
アンケート調査へのご協力をお願い

神戸市では令和4年度より「ポートアイランド・リノベーションプロジェクト」の一環として、これまで意見交換・シンポジウム・社会実験などを通じて、ポートアイランドのまちづくりに関する様々なご意見・ご提案をお伺いしてきました。これまでの取り組みを踏まえ、このポートアイランドにお住まいの全住民の皆様を対象としたアンケートを実施させていただきます。ご回答いただきました内容は、すべて統計的に処理し、プライバシーの保護はもとより、他の目的に利用することは一切ございません。

ご多用のところ誠に恐縮ですが、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

令和7年10月
神戸市 都市局 未来都市推進課

ポートアイランドの将来像検討のためにお手伝いをさせていただいております。東京藝術大学の藤村優子と申します。この度神戸市の「ポートアイランド・リノベーションプロジェクト」の一環として、「市民提案」の作成をお手伝いさせていただくことになりました。

「市民提案」とは、住民や企業、大学等の皆様が抱えていることを神戸市と連携して取り組む公益推進型公的施設と民間企業との連携型施設を主な対象として、ポートアイランド内の住民・大学・ファッションタウン進出企業・コンベンション関係団体・医療産業都市関係企業等・2期進出企業等の皆様それぞれに協力をお願いし、ご意見をとりまとめ、意見交換を終えたものを「提案」というかたちで神戸市に提出するものです。その内容は神戸市が検討する(説明)「ポートアイランドの将来ビジョン」の策定に当たり、参考とさせていただきます。

魅力的なポートアイランドの将来像策定に向けて、ぜひともアンケートへの協力をよろしくお願い致します。

東京藝術大学 准教授
藤村優子

アンケートのご記入にあたって
・ご回答は原則の代表者の方にお願いたします
(ご本人がご記入できない場合は、代理の方によるご記入も可能です)

・ご回答は、該当する項目に○を記入ください
「その他」をお選びになった場合は、括弧内に具体的な内容をご記入ください。

・お記入の2次元コードからフォームでご回答いただくことも可能です。

・ご回答が済みましたら、10/20日までに別紙にある回収方法のとおりご返信をお願いします。

アンケートについての質問等がありましたら、下記までお問い合わせください。

ポートアイランドの将来ビジョン策定に向けた検討業務 受託者
株式会社オール・エフ・エー 副総・調査
メールアドレス: office@nyu@afm.jp



意見交換の様子



アンケート用紙

2章 市民提案【2.4 意見聴取から得られた提案の方向性】

住民エリア

(1)意見聴取等の実施概要

アンケート

配布時期：2025年10月10日～20日

回答の方法：回答用紙全戸配布・web回答併用

総配布数：7218件(島内全住戸を対象)

うち有効回答数：1943件

回答率：27%

意見交換

1回目(まちづくり検討会)

実施日：2025年12月15日

実施の方法：対面

参加者数：28名

2回目(全住民対象)

実施日：2026年1月24日

実施の方法：対面

参加者数：37名

3回目(まちづくり検討会)

実施日：2026年3月21日

実施の方法：対面

参加者数：26名

大学

コンベン
ション

2期進出企業

住民

ファッション
タウン

医療産業都市

2章 市民提案【2.4 意見聴取から得られた提案の方向性】

(2)エリアの課題・ニーズ・ポテンシャル

①人口構成：高齢化と定住性

島内人口：14,031人 高齢化率：33.3%【住基台帳（2026.1）】

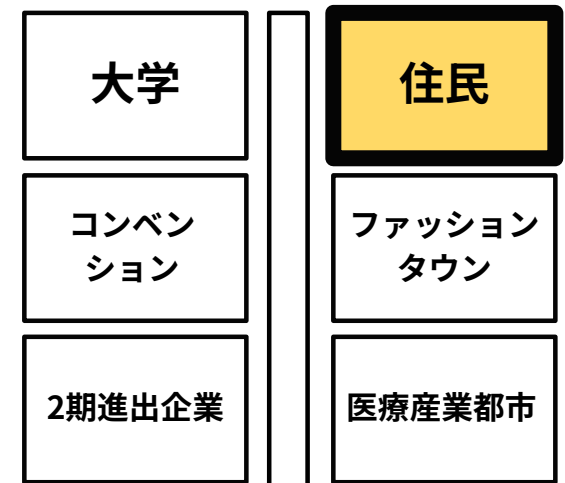
アンケート結果からも高齢化の実態が伺える（年代:60代以上が63% 居住年数:40年以上が26%）

②島外消費の加速化

アンケート結果、日用品の購入は、島内スーパー（46%）、島外スーパー（33%）が多い
外食は、島外（79%）、島内（6%）⇒住民の購買力が島外へ流出。島内経済が成り立っていない。

③コミュニティの空洞化

アンケート結果、近所付き合いほとんどない（38%）、自治会等の活動に参加していない（68%）など孤独・孤立のリスクが高まっている。また、まちづくりの議論に子育て世代や若者の参加が少ない傾向があり、多様な世代の声を柔軟に反映する仕組みづくりも今後の課題



2章 市民提案【2.4 意見聴取から得られた提案の方向性】

(2)エリアの課題・ニーズ・ポテンシャル

④将来像への希望

アンケートのまちづくりの課題では、「**人口回復と若年層の流入（68%）**」への関心が高く、具体的な方策として、住宅建設エリアの拡大や商業店舗などの利便施設立地を促すための規制緩和を求める声が上がっている。

⑤活性化拠点の整備と大学エリアとの交流

ポートアイランドは約1万人の学生が通学しており、防災活動、地域イベントへの参加、こども食堂の開催等による一部の学生との交流に留まっている。学生との交流を促すための緑地やにぎわい施設など**地域活性化拠点の早期整備**の実現とともに、**学生が島内に住みやすい環境**づくりも必要との声もある。

⑥安全で快適な移動環境

シェアサイクルなどのモビリティの充実により島内の移動環境の向上とともに、安心して利用できる、安全な道路空間の整備により、回遊性の向上や他エリアとの交流の促進につながると考える。また、高齢者やベビーカーが安全に通行できるよう、がたつきのない歩道舗装や木陰、ベンチの設置など、歩行者空間の整備を求める声もある。



2章 市民提案【2.4 意見聴取から得られた提案の方向性】

(2)エリアの課題・ニーズ・ポテンシャル

⑦注目される島へ

ポートアイランドは三宮へポートライナーで約10分、自家用車では神戸大橋、港島トンネルの2ルートがあり便利な立地であるにも関わらず、島外居住者から選ばれるようなまちになっていない。まちの活性化とともに、ポートアイランドの**魅力の発信**が重要との声。

⑧生活防衛としての施設要望

アンケートにおいて、日常生活に必要なものを購入できる店は、約半数（49%）の人が「もっと多くの店がほしい」を選択した。日常生活の中でほしい店として、「友達や知り合いと集まれる店（33%）」や「ひとりでゆっくりと過ごせる店（29%）」が上位であった。個別意見としては、「スーパーマーケット」の増加や「カフェ」「多様な飲食店」の充実、「耳鼻科」「眼科」「皮膚科」といった専門クリニックの不足など、**生活利便施設の充実**を望む声が多い。加えて、「コインランドリー」「ペットのクリニック」の要望も多く、「公共の図書館」「書店」などの声も多く聞かれた。そのほか、ポートアイランドの活性化のためには「大型モール」、「道の駅」といった島外からも人を集められるコンテンツも必要という声も上がっている。



2章 市民提案【2.4 意見聴取から得られた提案の方向性】

1) 市民提案の方向性

「多世代が交わる・
ウォーカブルな生活拠点」



①健康で活気あるまちの創出

高齢者や子育て層の社会的な状況の変化を踏まえ、**若年層の流入**を推進することなどで安心して過ごせる活気あるまちを作る

②豊かな日常のあるまちの創出

スーパーマーケットや飲食店、カフェなど気軽に集まったり憩いの時間を過ごせる場所が多様に選べる

③自然を感じるまちの創出

緑や海などの**豊かな自然環境を活かした**暮らしやすく、出かけたくなる環境を創出し、島外に向けた魅力の発信を強化する。

3章 専門家意見 【3.3 市民提案 6つのエリアの具体的アクションプラン】

2) 専門家意見

① 若年層流入のための住宅・小規模店舗の立地促進

若年層の移住を促進するため、島内全体でリノベーションの活性化を含め官民一体となって住宅の供給を増やし、**単身者ニーズ**の住宅や**起業希望者**向けの小規模店舗用スペースを創出する

② エリアマネジメント事業体制の組成

緑道や市民広場を活かしたマーケットなどでまちを活性化させるマネジメント体制を島内で創出し、**民間商業事業者の進出**を促す

③ 公共空間の歩行環境・滞在快適性の向上

緑道や歩道などの歩行環境の確保に加え、**住民参加によるイベントや民間事業者のサービス提供**などで活用できる滞在快適性の高い場の選択肢を増やす

2章 市民提案【2.4 意見聴取から得られた提案の方向性】

1) 市民提案の方向性

「多世代が交わる・
ウォーカブルな生活拠点」

港島自治連合協議会 副会長
橋田 之宏 様



2章 市民提案【2.4 意見聴取から得られた提案の方向性】

大学エリア

(1)意見聴取等の実施概要

アンケート

実施時期：2026年1月13日～30日

回答の方法：web回答

総配布数：6件

うち有効回答数：6件

回答率：100%

意見交換

実施日：2026年2月25日～3月13日

実施の方法：メール

回答者数：4件

大学

コンベン
ション

2期進出企業

住民

ファッション
タウン

医療産業都市

2章 市民提案【2.4 意見聴取から得られた提案の方向性】

(2)エリアの課題・ニーズ・ポテンシャル

①通勤・通学のストレス

最も関心のある課題として「ポートライナーの混雑」が一番多く選択されており、混雑緩和に向けた取組みが期待されている。

②島内移動の不便さと安全性の確保

キャンパス間の移動や駅からの二次交通として「島内での移動手段の不足」の関心が高く、シェアサイクルの増設や周回バスの運行等の解決策が求められており、特に2期に位置する大学においては物理的距離感が大きな課題となっている。また、通学路における街灯不足、樹木による視界不良、大型道路の信号不足などハード面の整備不十分も指摘されており、自転車道の明確な整備など**安全確保と利便性向上**が求められている。

③医療産業都市と自然

アンケートにおけるまちの方向性として、「医療産業都市」「自然が感じられるまち」が多く選択された。これに加え、「この島に来ないと体験できない」というコンセプトの確立も求められている。



2章 市民提案【2.4 意見聴取から得られた提案の方向性】

(2)エリアの課題・ニーズ・ポテンシャル

④連携への意欲

「大学間の交流」や「企業との連携」に対し、多くの大学が前向きな回答を示した。具体的には、防災訓練の共同実施や、産学連携の共同企画などが想定される。また、6～7大学が集結する強みを活かした合同文化祭やサークル結成が望まれる一方、地域活動において**学生と地域を橋渡しする専門のコーディネーターが不足**しており、教員の負担が大きい実態が課題である。

⑤「職住近接・学住近接」の可能性

教職員や学生が島内に住むことへの関心も確認された。学生の島内居住は「通学の利便性」という消極的選択に留まっており、そのためには**单身向けの住宅の供給だけでなく、学生のアルバイト先にもつながる、「生活利便施設の充実」**が条件となることが考えられる。

⑥リソース提供の用意

一般の方も使える**キャンパス施設(会議室、図書館等)がある大学や、シェアサイクル駐車スペースの提供の検討可能**という声もある。キャンパス内の空き部屋をNPOや学生団体に貸し出す連携も期待されるが、2期の研究施設ではセキュリティの観点から開放が難しい事情もあり、各施設の特性に応じた対応が求められている。



2章 市民提案【2.4 意見聴取から得られた提案の方向性】

1) 方向性

「キャンパスはまち・
まちはキャンパス」



①ポータライナー混雑の物理的・代替的解消

バス路線の増便など、**物理的な輸送力を増強**する。同時に、安全な自転車道の整備やシェアサイクルのさらなる拡充によって**移動手段の選択肢を増やす**。

②施設・情報の共有

他大学の**施設利用(相互開放)**を発信することで、ランチ環境の向上を目指す。さらに非常時の対応など情報をシェアする場など、**大学間「共有」の場**をつくる。学食利用における生協法の制限など各大学の事情を鑑みつつ、相互利用に関する情報発信を強化して心理的な壁を下げる。

③学生の居住支援

学生が住みたくなる環境を整備することで、**島内居住**を促し、まちの活性化とポータライナーの混雑緩和に寄与する。また、島内でのマーケット、チャレンジショップなど学生が気軽に起業やイベントに挑戦できるサポート体制を構築する。

3章 専門家意見 【3.3 市民提案 6つのエリアの具体的アクションプラン】

2) 専門家意見

① 街に開く 「ボーダレス・キャンパス」

各大学を隔てる物理的な「壁(フェンス)」を取り払うなどボーダレス化し、広場が街路と一体化する「オープン・テラス」や、大学間をつなぐ「アカデミック・パス(遊歩道)」を整備する。さらに、学食や図書館なども相互利用ができるなど、大学間の壁を取り除いていく。

② 「移動」を快適な「滞留」に変える 「モビリティ・ランドスケープ」

単なる増便や自転車走行空間整備にとどまらず、駅・バス停・駐輪場を統合した「モビリティ・ハブ(交通結節拠点)」を整備し、待ち時間すらも快適なキャンパスライフ、港島ライフの一部としてデザインする。

2章 市民提案【2.4 意見聴取から得られた提案の方向性】

1) 方向性

「キャンパスはまち・
まちはキャンパス」

大学

コンベン
ション

2期進出企業

住民

ファッション
タウン

医療産業都市

神戸学院大学 現代社会学部 社会防災学科 教授
江田 英里香 様

2章 市民提案【2.4 意見聴取から得られた提案の方向性】

ファッションタウンエリア

(1)意見聴取等の実施概要

アンケート

実施時期：2026年1月13日～30日

回答の方法：web回答

総配布数：21件

うち有効回答数：12件

回答率：57%

意見交換

実施日：2025年11月25日

実施の方法：対面

参加者数：13社

大学

コンベン
ション

2期進出企業

住民

ファッション
タウン

医療産業都市

2章 市民提案【2.4 意見聴取から得られた提案の方向性】

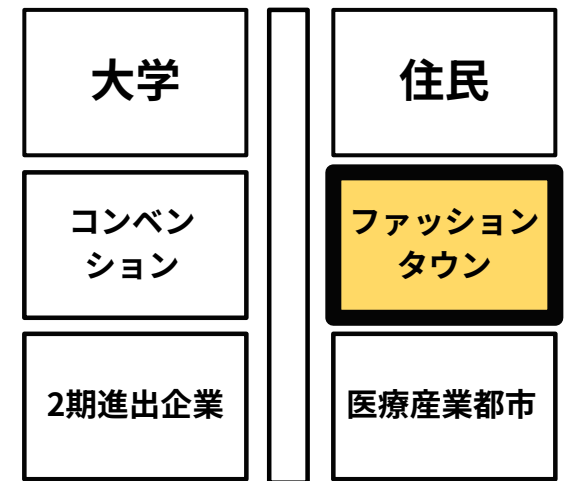
(2)エリアの課題・ニーズ・ポテンシャル

①通勤・通学のストレス

アンケートにおけるまちづくり課題として「ポートライナーの混雑(83%)」と「ランチ場所不足(75%)」が突出している。特に、エリア内の多くの企業が公共交通機関による出勤を行っており、42%がライナー混雑を「最重要課題」としていることから、通勤ストレスが企業活動のネックになっていることが伺える。

②再生に向けた転換

ファッションタウン周辺の就業者は、1990年代をピークに減少傾向にあり、近年ではエリア内の企業の流出が見られるとともに、学生マンションが建設されるなど、まちの状況が変わりつつある。アンケート結果では、エリアの将来像として、既存の「ファッションタウン」への関心は33%と最低であった。逆に「まちらしいまち(83%)」への支持が最高となり、企業自身が**単一用途からの脱却と、ミクストユース(用途混在)への転換**を求めていることが示された。



2章 市民提案【2.4 意見聴取から得られた提案の方向性】

(2)エリアの課題・ニーズ・ポテンシャル

③時代に合わせた柔軟な土地利用

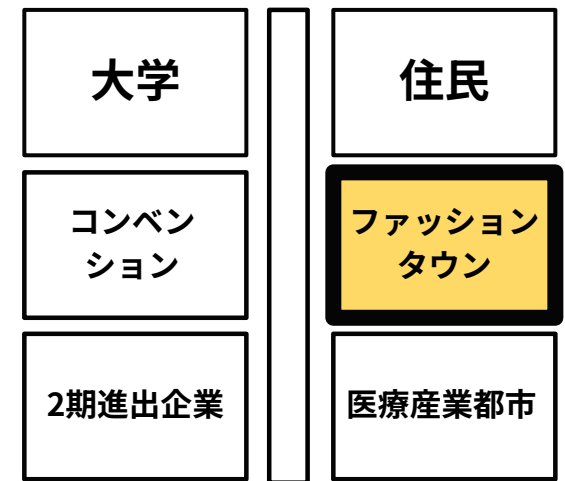
時代とともにまちづくりのあり方が変わってきている中で、
時代のニーズに応じた柔軟な土地利用が図れる用途混在エリアを目指すべきとの声が多い。
コンベンションエリアとの連携強化を図りつつも、現行のポートアイランド東地区地区計画における、用途制限をはじめ、容積率、高さなどの最低限度の規制緩和により、**夜間人口の増加とともに、飲食店等の利便施設の立地など土地利用の可能性を拡大する規制緩和を求める声**が上がっている。

④ファッション産業から多様な産業の場へ

エリアの将来像の検討にあたっては、ファッション産業を営む企業をはじめ、「ファッション」というカテゴリにこだわらず**幅広く検討すべき**との意見が多数である。

⑤協力の可能性

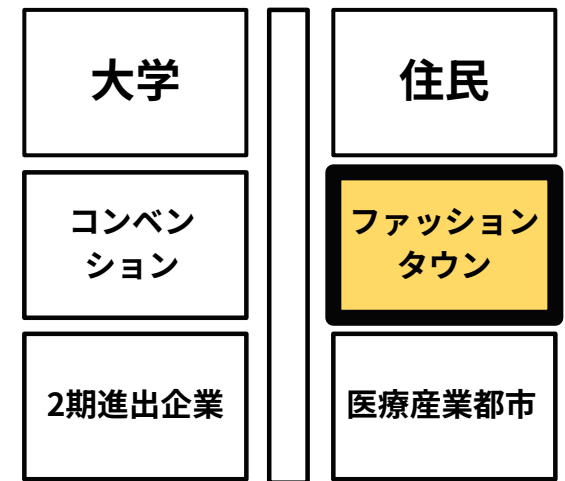
ランチ環境の改善に向けたキッチンカーの配車やシェアキッチンのお取組みの可能性について、キッチンカーの周知協力(84%)には前向きだが、場所の提供(0%)や設備提供(困難67%)など、自社リソースの持ち出しには慎重である。しかし、意見交換等において**PIRやエリアの活性化の取組みに対し何らかの形で協力ができれば**という企業が一定数いることが確認された。



2章 市民提案【2.4 意見聴取から得られた提案の方向性】

1) 方向性

「働き、住み、遊ぶ・
ミクストユース地区」



① 柔軟な土地利用の推進

今ある土地や施設、空間を活かし、**景観の美しさを保ちつつエリアの価値を高める**

② ファッションタウンの理念のアップデート

これまでの理念を活かして**現代の多様な産業・ニーズに応える**新たなポートアイランドならではの価値を創出する

③ 地区計画改訂

①②の推進のため、**地区計画の2回目の改訂**に取り組むとともに、他エリア(住宅・医療産業・コンベンション等)と連携する仕組みを構築する

3章 専門家意見 【3.3 市民提案 6つのエリアの具体的アクションプラン】

2) 専門家意見

①官民連携による「エリア・ブランディング」 の実践

まずエリア関係者が一体となり、統一感のあるサイン計画やストリートファニチャーの設置を通じて、エリア全体の「空間的な質(トーン&マナー)」をコントロールする

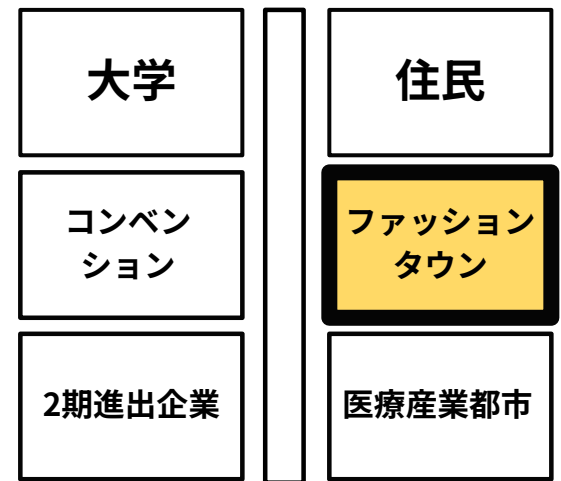
②規制緩和による「まちらしいまち」への転換

暮らしと連続した付加価値の高い多様な生活文化創造の場とするべく、業務、商業、住宅用途がほどよく混ざり合ったミクストユースのまちとするための規制緩和を行うことにより、83%が望む「まちらしいまち」への転換を促す。

2章 市民提案【2.4 意見聴取から得られた提案の方向性】

1) 方向性

「働き、住み、遊ぶ・
ミクストユース地区」



ユーハイム THEO事業部 部長 兼 フードテックマイスター 常務取締役
山田健一 様

2章 市民提案【2.4 意見聴取から得られた提案の方向性】

コンベンションエリア

(1)意見聴取等の実施概要

アンケート

実施時期：2026年1月14日～30日

回答の方法：web回答

総配布数：9件

うち有効回答数：4件

回答率：44%

意見交換

実施日：2026年3月10日～19日

実施の方法：メール 意見なし

大学

コンベン
ション

2期進出企業

住民

ファッション
タウン

医療産業都市

2章 市民提案【2.4 意見聴取から得られた提案の方向性】

(2)エリアの課題・ニーズ・ポテンシャル

①アフターコンベンション

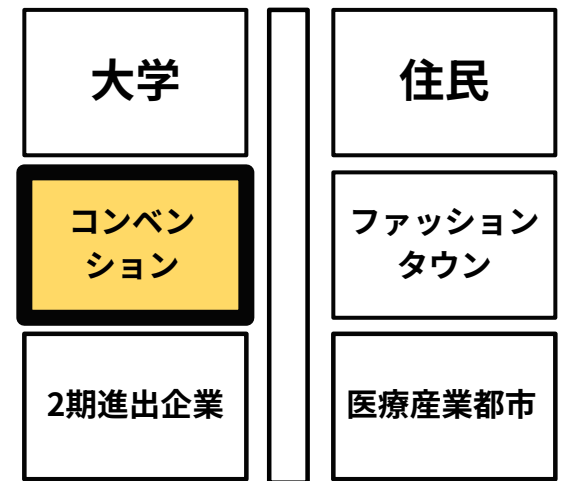
「参加者が利用できるランチ場所が少ない」「夜利用できる飲食店舗が少ない」を多くが課題として挙げており、会議終了後、参加者が島内に留まらず三宮へ流出してしまう「**機会損失**」が常態化している。

②ワークスペースの不足

「会議の合間で作業できる場所(コワーキングスペース等)が少ない」ことについても多くが課題視しており、**ビジネス客が作業できる場所へのニーズ**があることを示している。

③歩行環境の悪さ

「歩行者空間の快適性向上(日影・滞在空間)」も多くが求めており、**魅力的な道路空間**が求められていることが確認できる。



2章 市民提案【2.4 意見聴取から得られた提案の方向性】

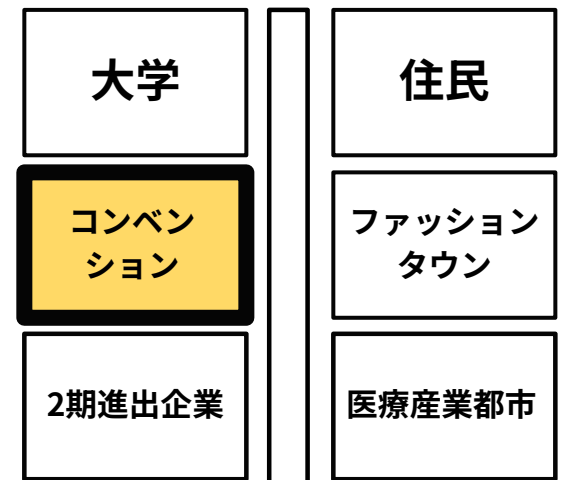
(2)エリアの課題・ニーズ・ポテンシャル

④MICEとしての将来像

コンベンションの将来像として「医療産業と連携したグローバルなMICE」というコンセプトが中心にあり、その他、住民や企業との連携や、B to Cなどのイメージがあることが窺える。

⑤まちの将来像

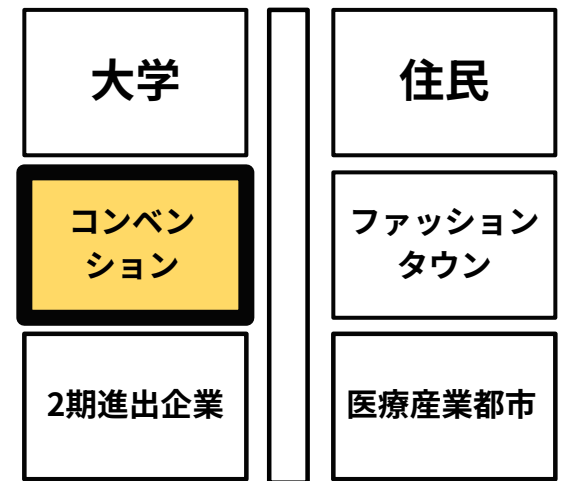
「コンベンション・シティ」「医療産業都市」「しごととくらしが近いまち」の3項目に対し、多くが「関心あり」と回答した。MICE機能と医療クラスター、そして生活機能が融合した都市像が支持されている。



2章 市民提案【2.4 意見聴取から得られた提案の方向性】

1) 方向性

「世界と地域をつなぐ・ ショーケース」



①参加者向けランチ・ディナー情報発信

イベントに合わせてホテルや会議場の中の**空き空間を提供**し、多様な飲食店やキッチンカーを誘致する。

②駅からの移動を促す移動手段の実験

エリア内を回遊するバスやシェアサイクルのポートを増設し、**駅からの移動手段の選択肢を増やす**。

③施設間の連携強化

施設合同のイベント開催や、共通の案内マップを作成し、**個々の施設で完結しない状況**をつくる

3章 専門家意見 【3.3 市民提案 6つのエリアの具体的アクションプラン】

2) 専門家意見

① Park MICEの推進による地域住民との交流促進

MICEの開催に合わせ、市民広場やホテル周辺の公開空地の活用による、ナイトマルシェ等のイベントを実施することで、MICE参加者の島内滞在時間を延ばすとともに、MICE参加者と地域住民の交流を促進し、MICE開催による地域へのレガシー効果を高める。

② プレイスメイキングによる「滞留空間」の創出

市民広場の高質化を図り、目的がなくとも人が留まれるサードプレイスとしての公共空間を整備する

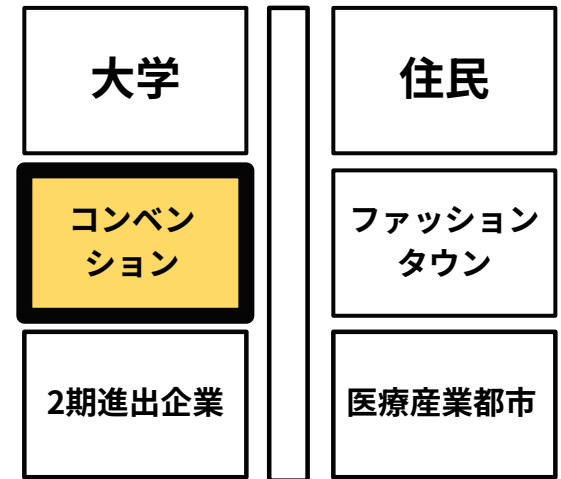
③ 民間投資を呼び込んだ既存施設の改修による機能強化

既存のコンベンション施設に増築や再生手法を取り入れ機能強化を図る

2章 市民提案【2.4 意見聴取から得られた提案の方向性】

1) 方向性

「世界と地域をつなぐ・
ショーケース」



神戸ポートピアホテル 代表取締役
中内仁 様

2章 市民提案【2.4 意見聴取から得られた提案の方向性】

医療産業都市エリア

(1)意見聴取等の実施概要

アンケート

実施時期：2025年11月18日～12月2日

回答の方法：web回答

総配布数：30件

うち有効回答数：15件

回答率：50%

意見交換

実施日：2025年12月9日

実施の方法：対面

参加者数：5社

上記および「神戸医療産業都市の将来像についての検討会」(2023年度)をはじめとした議論等も踏まえ、得られたエリアの課題・ニーズ・ポテンシャルをまとめる

大学

コンベン
ション

2期進出企業

住民

ファッション
タウン

医療産業都市

2章 市民提案【2.4 意見聴取から得られた提案の方向性】

(2)エリアの課題・ニーズ・ポテンシャル

①ランチと生活利便性の課題

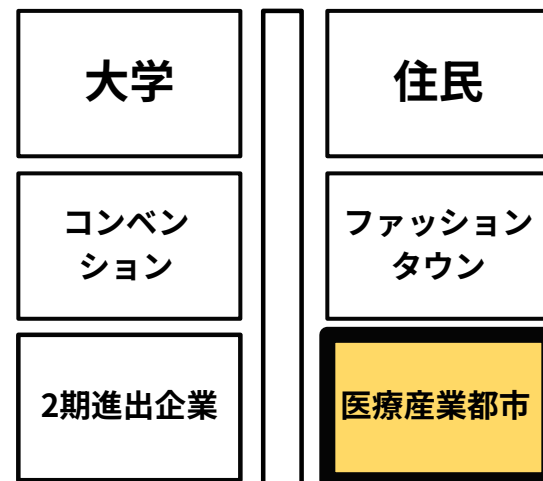
アンケート結果のまちづくり課題において、回答企業の100%が「ランチ場所が少ない」に関心ありと回答した。これは全エリア中、最も高い一致率を示す課題である。

②インフラへの期待と関心

2030年頃の神戸空港の国際定期便就航に対し、回答企業の73%が期待を寄せているが、具体的な活用策を検討している企業はまだ少ない。また、ポータルライナー混雑(87%関心)は、当エリアにおいても強い関心が示された。

③公共から民間へ

これまで、神戸医療産業都市におけるラボビルの整備や運営は、市・外郭団体によって行われてきたが、近年、スタートアップの台頭等を背景として、全国的にラボ市場が活況を呈しており、神戸医療産業都市においても民間事業者によるラボビルの整備が進捗している。



2章 市民提案【2.4 意見聴取から得られた提案の方向性】

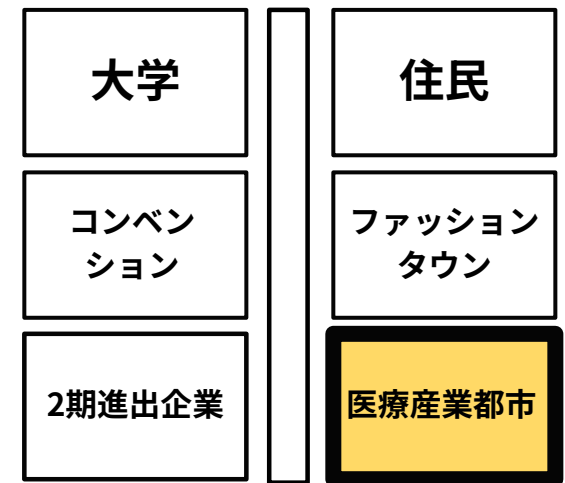
(2)エリアの課題・ニーズ・ポテンシャル

④多様な人材の集積・往還とまちの魅力向上

神戸医療産業都市の持続的な発展のためには、多様な人材の包摂を可能とするまちづくりの推進とともに、これまで培ってきた社会資源を有効に活用しながら**起業・操業や就労・就学等、様々な観点から「まち」の魅力**に磨きをかけ、**若い世代をはじめとした多様な人材**をひき寄せるコミュニティとなるような施策展開が望まれる。

⑤企業間交流の強化・連携

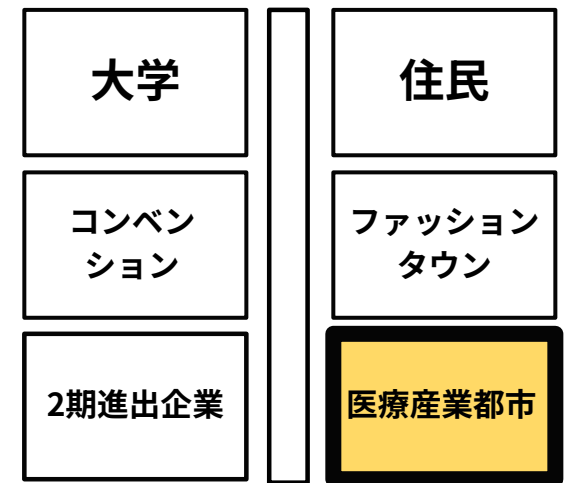
アンケート結果によると、エリア内での連携(67%)は一定程度あるものの、**80%が「企業間交流機会の創出や交流場所の確保」**について関心を抱いている。



2章 市民提案【2.4 意見聴取から得られた提案の方向性】

1) 方向性

「イノベーションが生まれる・
交流の街」



①環境を活かした医療産業都市の推進

2期でのこれまでの蓄積に加え、ポートアイランド全体の既存の環境(コンベンション含む)、神戸市域全体の企業や大学・研究機関に加え、市域外のクラスターや大学等との連携を活かし、**さらなる国際競争力**を高める。

②交流・連携空間の活性化の推進

企業・大学・研究機関間の**交流・連携環境の充実のための体制構築**を行う。

③まちの魅力向上施策の推進

経済界等との連携によりブランドの構築や情報発信、民間の知見や資源を活用しながら**戦略的にエリアマネジメント**に取り組み公共空間の魅力の向上を推進するほか、若い世代をはじめとした多様な人材をポートアイランドにひきつけるイベントの実施や住民と進出企業・団体との交流の機会の創出など、まちの活性化に資する取り組みを展開する。

3章 専門家意見【3.3 市民提案 6つのエリアの具体的アクションプラン】

医療産業都市エリア

①多様な人材、企業の集積

新たなラボビルの誘致、既存ラボの効率的運営を図り、イノベーションの創出と産業化を促進するための研究・開発環境を充実させる。

②他地域コミュニティやクラスターとの連携強化

これまで蓄積した社会資源と他地域の持つ強みを掛け合わせ、さらなる成長を遂げる。第1期エリアと第2期エリアを物理的・心理的に繋ぐ交流の場をデザインする。

③公共空間の歩行環境・滞在快適性の向上

緑道や歩道などの歩行環境の確保に加え、住民参加によるイベントや民間事業者のサービス提供などで活用できる滞在快適性の高い場の選択肢を増やす

2章 市民提案【2.4 意見聴取から得られた提案の方向性】

1) 方向性

「イノベーションが生まれる・
交流の街」

大学

コンベン
ション

2期進出企業

住民

ファッション
タウン

医療産業都市

エア・ウォーター・アエラスバイオ 代表取締役
菊地 耕三 様

2章 市民提案【2.4 意見聴取から得られた提案の方向性】

2期進出企業エリア

(1)意見聴取等の実施概要

アンケート

実施時期：2025年11月27日～12月9日

回答の方法：web回答

総配布数：86件

うち有効回答数：17件

回答率：19%

意見交換

実施日：2026年3月17日

実施の方法：オンライン

参加者数：7社

大学

コンベン
ション

2期進出企業

住民

ファッション
タウン

医療産業都市

2章 市民提案【2.4 意見聴取から得られた提案の方向性】

(2)エリアの課題・ニーズ・ポテンシャル

①課題の同期

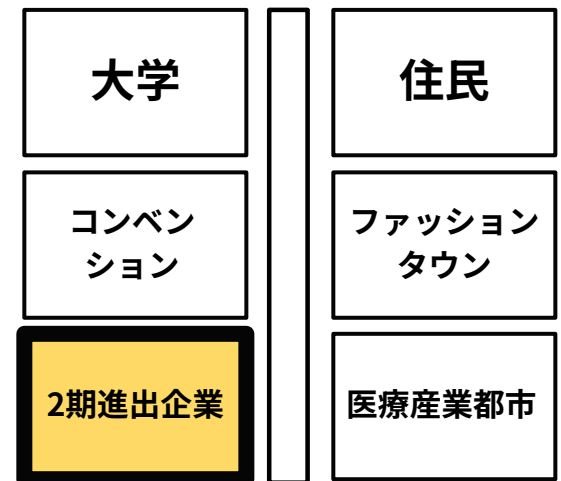
神戸医療産業都市と同様、「ランチ場所不足(88%)」と「ポートライナー混雑(88%)」が二大課題となっているが、12%ではあるが「キッチンカー出店場所(駐車場・電源)の提供」に前向きな企業がいることがアンケートより確認された。また、「自社所有地(駐車場や空地)の提供が可能」との声もあった。**食の環境改善が他企業や住民との交流の幅を広げるきっかけになる**との声もあった。

②連携への意欲

アンケート回答企業の24%が島内の連携を行っておらず、また29%の企業が今後の新たな連携等を望んでいないことが示された。これは他のエリアに比べ高い比率であり、**物流・製造業が立地するこのエリアの特徴**ともいえる。

③神戸空港国際化への温度差

2030年頃の国際定期便の就航に対し、「大いに期待し、既に対応を始めている」企業は18%に留まり、「期待はするが対応は未着手」が53%を占めている。ポテンシャルはあるものの、具体的なアクションに落とし込めていない現状がある。



2章 市民提案【2.4 意見聴取から得られた提案の方向性】

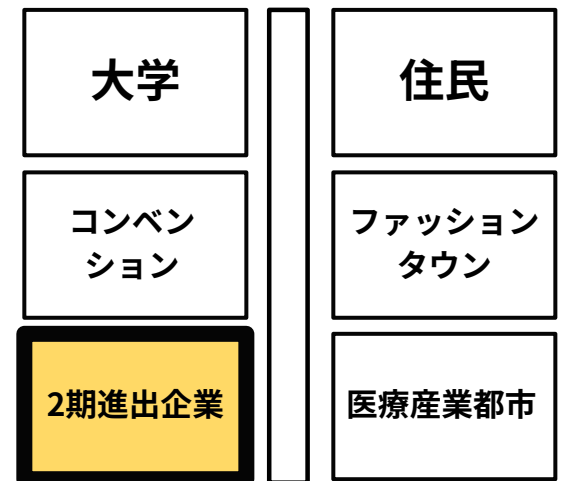
(2)エリアの課題・ニーズ・ポテンシャル

④自然が感じられるまち

アンケートにおけるまちの方向性については「医療産業都市(82%)」、「コンベンション・シティ(76%)」、「自然が感じられるまち(71%)」に関心が示された。まちの課題においても歩道への日陰を求める声もあり、医療産業都市やコンベンションとともに、**自然豊かなまちへのニーズ**が窺える。

⑤昼食ニーズ

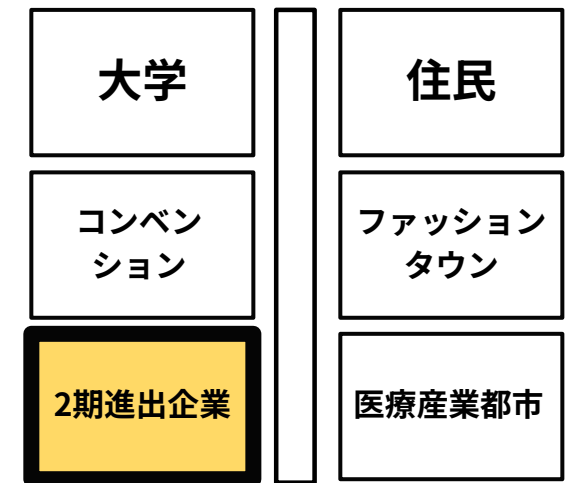
「食品工場は制服のまま外に出られない」こともあり、ランチ時間の外出ニーズは低い。また「周辺にコンビニがない」といった声もあり、特に駅から遠い企業については移動販売車のエリアの拡大や台数の増加のニーズは窺える。同時に**昼休みの限られた時間内で第1期の飲食店などへ足を運べるよう**、シェアサイクル、電動キックボードといったモビリティの充実も求められている。



2章 市民提案【2.4 意見聴取から得られた提案の方向性】

1) 方向性

「快適な操業環境と開かれた産業拠点」



①生活利便施設と島内移動手段の補強

企業内に食堂などの開放ゾーンを設置し近隣に開放する、またはコンビニを誘致するなどに加え、休憩時の島内移動を促進する手段の整備でランチ課題を解消するとともに、**移動の容易化によるまち全体の活性化を促す。**

②夜間の安全性と景観

街灯の増設、各企業の敷地内照明によるライトアップなどにより、**防犯・安全と夜間景観の創出へつなげる**

③企業間交流の拡充

交流イベントや情報交換会を定期開催する団体や組織など、**連携したいがきっかけがない人を巻き込む場の創出**

3章 専門家意見【3.3 市民提案 6つのエリアの具体的アクションプラン】

2期進出企業エリア

① エリア一括でのキッチンカー配車

協力企業の駐車場や公開空地を「ランチスポット」として開放し、エリア一括でキッチンカーを配車するシステムを構築する。

② オープン・イノベーションの誘発

セットバック部分やエントランスホールを「セミパブリック空間」として位置づけ、職員同士が組織を超えて偶発的に出会う場を都市デザインコードとして定める。企業活動を可視化し、広場のように開かれた空間とすることで連携のきっかけを作る。

③ ウォーカブル・ネットワーク

道路の緑地を見直し、歩道を拡幅して植栽や照明、ベンチ等を整備することで、単なる移動空間ではなく、研究者らが散策しながら思考を巡らせられる滞在空間として街路を整備する

2章 市民提案【2.4 意見聴取から得られた提案の方向性】

1) 方向性

「快適な操業環境と
開かれた産業拠点」

神戸どうぶつ王国 代表取締役
永田 雅寛 様

大学

住民

コンベン
ション

ファッション
タウン

2期進出企業

医療産業都市

3章 専門家意見

行政と市民の新しいパートナーシップに向けて

本市民提案は、2023年度からの様々な取り組みのなかで出会った、ポートアイランドに関わる関係者の意欲によって描かれた。その策定の過程で、全てのエリアのステークホルダーが、かつて「株式会社神戸市」と呼ばれた頃の公共デベロッパー方式のイメージに基づいた「**行政にお任せ**」する姿勢を捨て、**自らの手で街を動かしていくという新たな公民連携型まちづくりに取り組む「決意表明」**に近づこうとしている。

アンケートで示された「79%が島外で食事をしている」「100%がランチに困っている」という数字は、裏を返せばそれだけの「巨大な潜在需要(マーケット)」が島内に眠っていることを意味する。

神戸市に対しては、この熱意とポテンシャルを受け止め、規制の壁を取り払い、活動の舞台(プラットフォーム)を整えるための「**大胆な権限移譲**」と「**戦略的投資**」をもとに新たな公民連携型まちづくりに取り組むことを求める。2030年頃の神戸空港の国際定期便就航という絶好の機会を捉え、公と民が対等なパートナーとして歩み出し、ポートアイランドを「オールドタウン化した未来都市」から、世界に誇れる「自律共生型未来都市」へと「**再未来化**」させることをここに提案する。

ポートアイランド・リボーンシンポジウム2026

第2章 1部

「緑豊かな未来都市の 実現に向けて」

登壇者(50音順・敬称略)

- ・ 武田 重昭 | 大阪公立大学 大学院農学研究科 緑地環境科学専攻 教授
- ・ 南都 善彦 | 神戸どうぶつ王国 植物管理部 課長
- ・ 平賀 達也 | ランドスケーププラス 代表取締役

ポートアイランド・リボーンシンポジウム2026

第2章 2部

「ポートアイランドで起こり つつある新しい動き」

登壇者(50音順)

- ・ 江田英里香 | 神戸学院大学 現代社会学部 社会防災学科 教授
- ・ 佐合純 | UDCPIC センター長・iC 代表取締役
- ・ 柴田今日子 | SHIMANO COFFEE STAND
- ・ 前川友哉 | 久保田セメント工業 営業本部 ゼネラルマネージャー

ポートアイランド・リボーンシンポジウム2026

今後の取組みについて 「市民提案と将来ビジョン」

・ 藤村龍至 | 東京藝術大学 准教授／RFA主宰

3章 専門家意見

以上を踏まえて各エリアの「市民提案」に専門家の意見を重ねることで「実行可能なアクションプラン」へと昇華させる。

3.1 市民提案の全体コンセプト

「健康を基盤とした再未来化

Re-Futurelizing based on Healthiness」

健康をキーワードに機能や交通で分断されたエリアを、交流とウォーカブルな公共空間で紡ぎ直し、海上未来都市の新たな可能性を描き直す。

3つの戦略

1. 公共空間 : 公共空間で分断されたエリア、世代、産業を物理的・心理的につなぐ
2. クラスター : 使われていない施設、企業の敷地、公共空間を地域にひらく
3. 健康 : 「健康」で住む、働く、学ぶ、遊ぶ機能を混ぜ合わせ、イノベーションと賑わいを生む

3章 専門家意見【3.2 実現のための方策】

提案(1) 民間投資を誘発する「規制緩和」と関係人口の増加

住宅エリアでは、住民の一斉高齢化により消費額が低迷し、飲食をはじめとする民間サービス事業者の撤退が続いている一方、医療産業都市および2期を始めとする島内企業勤務者および島内大学関係者の居住機能は不足していることから、住宅用途の土地利用を可能な限り拡大することで、商業・利便施設等の民間サービス事業者の進出を促すとともに、**島内人口バランスの回復**や関係人口の増加によるにぎわいづくりの施策が必要である。

特に、40年が経過したファッションタウンエリアをアップデートしていく上では、時代のニーズに応じたコンベンション機能の更新と柔軟な土地利用を推進する必要がある。低容積による土地の暫定利用や、一部の街区に**住宅等の立地を誘導し、ミクストユースを推進**するなど、これまで業務機能の高度利用を図るために住宅用途等を規制してきた**ポートアイランド東地区（ファッションタウン）における土地利用の規制を一部緩和し、エリアの不動産流動性を高める**ことは、商業・利便施設等の民間投資を呼び込む上で効果的であると考えます。その際、分譲開始時には民間企業の提案を受入れながら高質な景観を創出し、エリアの価値を高めてきた**「ファッションタウン」の独自性**はエリアの価値の維持向上の観点から継承すべきである。

3章 専門家意見【3.2 実現のための方策】

提案(2) 「4層構造」によるエリアマネジメント体制の構築

エリアマネジメントを円滑かつ持続可能なかたちで推進するため、以下のような**4層の役割分担**を明確化した体制を**専門家を中心に市のコーディネートによって再構築**する。特にPIRを契機に結び直しの進む第2層、新たな取り組みによる第3層の立ち上げに注力する。

層	役割	対象	内容
第4層	使用	サービス事業者(飲食等)、キッチンカー事業者、イベント主催者、住民による有志の団体等	コンテンツやサービスの提供
第3層	企画	エリアマネジメント事業を推進する「 エリアマネジメント事業組織 」	事業の企画・出店調整・行政との調整と提案による第4層の支援
第2層	合意	既存の住民・企業・大学等の組織(自治連合協議会、企業等による協議会、大学連携会議等)の連絡や合意の調達等を担う エリアプラットフォーム	ヴィジョンの策定による合意の調達、ルール策定、関係者への周知と意見徴収による第3層の支援
第1層	所有	神戸市・UR等	第2層の会議体の再構築、インフラ再整備・規制緩和による第3層の支援・ファンドの創設

3章 専門家意見【3.2 実現のための方策】

提案(3) グリーンインフラとストリートマネジメントによる健康増進

ポートアイランド整備時にポートピア大通りや各公園、ファッションタウン等に植樹された**豊かなグリーンインフラ**を活かしつつ、住民がまつりを行う市民広場やラジオ体操などで集う南公園、中公園、しおさい公園や西緑地などは、**パーゴラの設置や芝生化、透水性舗装化**などの施策により、**ヒートアイランド対策と快適な滞在環境を両立するみどりによる環境再構築**のための再投資を期待したい

ストリートマネジメントにより歩行者空間と緑地を一体化させ、**緑陰のもとで休憩できる椅子やテーブルを常設**するなど、歩行者空間の**滞在快適性**を向上させる取り組みを実施し、高齢化が進み、社会的に孤立しやすい住民が外出しやすく、**病気や衰えを防ぎ健康**でいるための環境を整える

提案(4)社会実験の成果を活かした島内交通の課題解決

島内回遊性の向上とクラスター間の交流を促進するために、2度にわたる**交通社会実験における住民・企業と道路管理者、交通管理者との意見交換**の成果を活かし、島内の交通環境の再整備を検討する。例として三宮エリアから医療産業都市等への自転車通勤者の増加による**ポートピア大通り周辺の軽車両と歩行者の交差、車両の一時停車スペース**の検討など、**新しい課題の把握と解決のための再整備**に期待したい

将来ビジョン策定にむけて

2023・2024年度に実施されたヒアリング調査と意見交換の後、通常であればすぐに「将来ビジョン」の策定に移るところであるが、ポートアイランドでは**「市民提案」策定のプロセスを1年挟むことによって市民の主体性を掘り起こし、公民がよりよいパートナーシップを構築**できる環境を整えようとした。このプロセスにより、行政や企業が市民に対し、市民が行政や企業に対して、それぞれ提案がしやすい体制が生まれつつある。その意味では本市民提案は内容のみならず、その策定プロセスこそが重要であったと言える。

今後は神戸市が行政として民間事業者や市民とどのように関係を構築し、どのようなまちづくりを実現するか、具体的な意見交換を進めるフェーズに移行する。民間事業者や市民も同様に、どのようなまちづくりを実現するか、具体化できるフェーズが整ったといえる。**本市民提案はそのような新たな連携、共創関係を構築するために具体的に活用**されることが期待される。

ロードマップ

2025年度 市民提案の提出と課題の共有

本提案書を神戸市へ提出し、行政と地域との間でポートアイランドの現状に対する課題と未来へのポテンシャルが共有される状況となる。

2026年度～ 将来ビジョンの策定

神戸市において、本提案を基盤として活用しながら、具体的な将来ビジョンの策定を進める。ポートアイランドの市民はビジョンの策定に参加する。

ビジョン策定以降 具体的なアクションへの移行

公民が連携した自律共生型・未来都市の実現に向けた具体的なアクションへと移行する。

ポートアイランド リボーン シンポジウム 2026

2026.5.13

ポートアイランド リボーン シンポジウム 2026

2026年5月13日[水]
13:30-15:30
[13:00 開場]

神戸ポートピアホテル
本館B1F 偕楽
神戸市中央区港島中町6丁目10-1

主催 神戸市都市局未来都市推進課
問い合わせ先 神戸市お問い合わせセンター
0570-083-330 または 078-333-3330
年中無休 8:00-21:00

メールフォーム




申し込みはこちらから
<https://forms.gle/ahRgahGaeBsuE8gg>

参加無料

会場200名^{程度}
オンライン100名^{程度}

定員に達し次第
受付終了

本市では、ポートアイランドの活性化に向け、2022年度より「ポートアイランドリボーンプロジェクト」を始動し、島内の関係者の方々と意見交換やワークショップを行いながらまちの将来ビジョンの検討を進めています。このたびは2025年度に取り組んだ「市民提案」の共有と2026年度以降の取り組みや目指すべきまちづくりの方向性について意見交換を行うことを目的に、「ポートアイランドリボーンシンポジウム2026」を開催します。ポートアイランドのまちづくりにご興味をお持ちの方はぜひご参加ください。

PORT ISLAND REBORN SYMPOSIUM 2026

今改めて
ポートアイランドの
魅力とは

第1部 市民提案レビュー

第2部 パネルディスカッション

- 1 「緑豊かな未来都市の実現に向けて」
- 2 「ポートアイランドで起こりつつある新しい動き」

5.13|13:30-15:30



おでかけKOBÉ

